

1985年9月22日、セントラルパークに面した豪華シャンデリアの輝く高級ホテルの一室で重要会議が開かれていた。人目を避けるように集まってきた日・米・英・独・仏、通称G5の大蔵大臣と中央銀行総裁が、一つの声明を出すため秘密裏に会合をしていたのだ。これが後にホテルの名を冠して「プラザ合意」と呼ばれて歴史を揺るがす声明である。その後、世界経済・金融の行く末はご存じの通りであるが、会議を主催した米国は実にふさわしい舞台を用意したものだと思う。

20世紀初頭、世界経済で頭角を現してきたアメリカがヨーロッパに負けない「世界で一番豪華なホテル」を合言葉に、フランス・ルネッサンスのシャトーを模したプラザを1907年10月に開業させた。設計にはワシントンDCのウィラードやジョンレノンで有名なダコタ・アパートを手掛け、当時一流の建築家として知られていたヘンリー・J・ハーデンバーグを起用した。インテリアの装飾品はすべてヨーロッパから最高のものが輸入され、ポサール様式で装飾された19階建て総客室数800を超えるホテルであった。有名人も多くプラザを定宿としたが、中でも「近代建築の三大巨匠」の一人フランク・ライト・ロイドは最後までプラザを愛し、暮らし続け、ここで没している。晩年この大建築家は「私がこのプラザを設計したかった」と、その思いを吐露している。

プラザは最近の買収劇やホテル身売りの話でも世間の注目を大いに集めた。1988年バブル絶頂期に日本の青木建設(2001年に民事再生)が傘下にプラザを持つウェスティン・グループを買収したが、わずか10日後に今度はドナルド・トランプ氏に転売してしまう。90年後半にはトランプ氏にも陰りが見え始め、97年にはサウジの王子アルワリード氏とシンガポールのCDLに売却する。アルワリード氏がフェアモントホテルズのオーナーであったことから、運営はフェアモントグループに委ねられた。そして2005年にプラザは劇的変化を迎えることになる。再びオーナー権は移行し、実に時価の2倍の値段で買い取られたがそれでも充分利益の出るものだった。その真意はホテルを分譲マンションとして売却すれば、さらに巨額の利益が出る「打ち出の小槌」にあった。しかしこの計画はNY市民の猛反対にあい頓挫してしまう。結局、建物の約三分の一をホテルとして残すことで和解し、3年間の大リノベーションを経て08年にフェアモント・マネージドホテルとして再オープンしている。

現在のプラザは102室のスイートを含む全282室のホテルとなり、セントラルパーク側はすべて超高級コンドミニウムとなっている。しかし3年に及ぶ贅を尽くした大改造で、館内はより磨きが掛かり新築時の輝きと自信を取り戻している。大きな注目と希望を持って迎えた再出発だけに、従業員のモチベーションも上がり動きが機敏になったように感じる。ニューヨーク市の歴史的建造物にも指定されている美しき貴婦人、「ザ・プラザ」。その美しき姿は永遠に輝き続けると信じたい。



ゆったりと時が流れる優雅な「The Champagne Bar」。ロビーの一部としての役割も持っている



巨大で荘厳な雰囲気のファンクションスペース「The Terrace Room」。プラザの宝石と言われ、その美しさに圧倒される



優雅なモザイクタイルで表現・構成されたバスルーム。どんな大理石使用の壁面より豪華で手が込んでいる



客室階のエレベーターホール。絵画や家具、調度品などセンスを感じさせるレイアウトである



表現する言葉に窮するような美しさのベッドルームである。ゴールド枠のベッドヘッドと優雅なシャンデリアとの相性が見事だ。この部屋はエドワード・スイートと呼ばれ、約100㎡の広さを誇る



豪華なシャンデリアが輝く、フランス・ルイ15世スタイル(ロココ様式)のリビングルーム。筆者にはイタリアル・ルネッサンスの趣に感じられる



セントラルパークにある池から望む美しい貴婦人、「ザ・プラザ」。1907年に建築された19階建てのランドマーク的存在のホテルで、ニューヨーク市の歴史的建造物に指定されている



レセプションに行く途中にあって、気軽に相談に乗ってもらえるコンシェルジュデスク



フランス、コーダリー社の最高峰スパ「Caudalie Vinotherapie Spa」のスイートルーム



1907年より続くプラザの顔として世界的に有名な「Palm Court」のエントランス。天井の豪華なステンドグラスの装飾は注目だ



グラッドアーミープラザに建つ「シャーマン将軍と女神像」から俯瞰したザ・プラザ。ホテルの名前はこの広場(プラザ)から名付けられた



大型の国旗や美しいホテル旗がたなびく正面ファサード。キャンピーを飾る金色の紋様が太陽に反射して美しい



豪華なシャンデリアと美しい生花に迎えられるロビー。アーチ型のドアの向こうに見えるのがプラザの顔である「Palm Court」である



セントラルパーク側にある超高級レジデンスのエントランス。アテンダントの紳士が常時待機している



筆者 小原康裕
ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけにとどまらず、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。
www.jhrca.com/worldhotel